

- 彼女のいないのに気付くかも知れないという意識である。彼女は時間を守らねばならない。(Arens).
3503. dir am Busen — an deinem Busen.
3504. Brust an Brust — (meine) Brust an (deine) Brust. Seel' in Seele — (meine) Seele in (deine) Seele. 無垢な Gretchen を先ず大げさな言葉で、それからこの上なく見すばらしい言葉で欺いてから、更に自分の行為を承知した上で、ほとんど同時に結合に対する切なる願いを、Antipathie という軽蔑的な言葉に、“Ach, kann ich nie”と韻を踏ませながら持ち出すとき、Faust のシニシズムは、決して Mephisto のそれに劣るものではない。(Arens).
3505. alleine — allein の古形。= einsam od. vereinsamt. (Fischer). “Faust”では他に Vers 3605, 5028, 5432. schließ' — schließe. Konjunktiv II. 次行の ließ'と同じく現在の仮定。Vgl. Vers 2709—16. (Arens).
3506. ließ' — ließe. offen|lassen. dir — für dich.
3508. würden wir. . . — wenn wir von ihr betroffen würden. würden — Konjunktiv II. 現在の仮定。次行の wär'も同じ。betroffen — angetroffen, ertappt. (Schöne).
3509. Ich wär' — (So) wäre ich.
- 3505—09. „seines Mundes Lächeln, seiner Augen Gewalt und seiner Rede Zauberfluß” (Vers 3396—99) に抵抗できずに彼女は同意する——もし可能ならと。というのも彼女の結合への衝動の方が、どんな危険な予感よりも強いからである。とは言えそれは、母親から現場を押えられた場合の恥しさよりも強いということではない。もし強ければそれは、人間の根本的な関係を破壊するだろう。そしたら彼女はこれから先どうやって生きて行ったらよいのか、本当に分からないだろう。この点で純然たる家庭の破局は、のちの彼女の社会的な破局に匹敵すると言えるだろう。彼女のほんの少し誇張した言葉は、彼女が公然たる恥辱には耐えられない、ということを暗示している。(Arens).
3510. das — 前2行のこと。Faust は Gretchen を嬉しそうに Engel (この言葉はとうにその輝やきを失っている) と呼ぶ。彼女が原則的に乗り気だと思ったからである。Gretchen の身に起り得る結果のことなど、Faust には何の関係もない。(Arens).
- 3511—13. In ihren Trank のあとに gegossen を補う。(Thomas). ihren — Gretchen の母親。umhüllen — untrennbar. ringsum verhüllen. (Grimm). die Natur — (unausgebildete) Menschen. (Fischer). = Nur drei Tropfen, (die)

in ihren Trank (gegossen sind), umhüllen die Natur mit tiefem Schlaf gefällig. ただ三滴だけ飲物へ混合して飲めば身体が気持好く (gefällig) 深い眠を以て掩はれる。(青木)。

Drei Tropfen nur というのは、それ以上入れてはいけない、という注意では決してない。3滴でもう深い眠りをもたらす。それ以上だともっと深い眠りを——と Gretchen は考えたのだろう。(Trendelenburg)。

解説者たちは大抵 Mephisto が Faust にこの睡眠薬を与えたのだと推測している。しかしこのことを示唆している所はどこにもない。Doktor Faust は Mephisto のこうした援助を恐らく必要とはしなかつただろう。(Heinemann)。

3514. tu' —— tue. 反語的疑問文。この行と最後の2行 (Vers 3519—20) は同じである。(Arens)。

3515. Es —— Vers 3511の ein Fläschchen. 次行の es も同じ。ihr —— Gretchen の母親。schaden ——次行の raten と韻を踏む。(Heffner)。Gretchen の危惧は実現される。Vgl. Vers 3787—88. (Königs)。

3516. Würd' —— Würde. Konjunktiv II. 外交的用法。Liebchen —— Lieb (n.) の縮小形。=Geliebte. (Fischer)。

3517. Seh' ich dich nur an —— Wenn ich dich nur ansehe.

3518. so ——次行の Daß と結ぶ。viel —— viel(es). 現在完了。

3520. =Daß mir fast nichts zu tun mehr übrig bleibt.

3514—20. 彼女がすでに“bester Mann”の為にしたことは次の通りである。「彼女は不正を働くことによって、母に対する信頼関係を破壊した。彼女は母と教会の忠告と意見に反して、二つめの飾りを取っておいた。つまり婚約者でもない男から贈物を受取ったのである。これは完全に禁じられていたこと (Vers 3558f.) であった。彼女はあらゆる道徳に背いて、彼との関係を維持した。彼女は宗教上の疑念をすべて軽視してしまった。これは要するに神に敬意を払わなかったのではなくて、自分の感情に完全に従ったということなのである。その方が良いと思ったからである。彼女は自分の気持に打ち勝つことができずに、キリスト教を忘れてしまった。こういうわけで彼女にまだ残っているのは、最後の一步だけである。」

これまで彼女はエロスの力と、Faust の個性から発する磁石のような力に、まだ出会ったことはなかった。そのため彼女は、自分を Faust の意志の方へ狩り立てるものが何なのか、知らないのである。Gretchen の欲望は、Faust のそれに劣るものではない。最後のためらい、即ち、薬が母の健康を損いはいはしないかという考えは、Faust に対する深い信頼によって克服される。(Arens)。

3521. Grasaff' — Grasaffe. 未熟な人間に対して皮肉ったり、叱ったりする言葉。もしかすると本来は方言で、ゲーテによって文学用語に取り上げられた。若い人達の方言ではまだよく用いられる。ここでは偏狭な批評家に関して用いられた、軽蔑したののしりの言葉。(Grimm).
- 子供や若い女達に対するフランクフルトの言葉で、ゲーテやその母によって、叱る意味ではなく、愛情をこめてラフに用いられている。(Arens).
- Hast wieder — Hast (du) wieder. 現在完了。Alexandriner. (Schröer).
3522. hab's — habe es. es は Gretchen との会話。現在完了。
3523. Herr Doktor — 嘲笑的な意味。(Endres). wurden — 高貴な人物に対して、特に儀礼的なスピーチに用いられる敬意の複数。次行の Ihnen も同じ。(Heffner). Mephisto は Faust が経験に乏しい少女から、教会を信頼していないという理由で、非難されねばならなかったことを取り上げて、Faust を侮辱するつもりである。(Endres).
- katechisiert — Dem Katechismus entsprechend 《durch mündliches Fragen und Antworten in der Glaubenslehre unterrichten》. (Adelung).
3524. Hoff' — (Ich) hoffe. es — 前行のこと。soll — wird. jm. gut bekommen. 或人のためになる。
3525. Mädcl — 縮小形 Mägdlein の縮小形。(Fischer). doch — やはり。
3526. einer — 不定代名詞。男性 1 格。
3527. Sie — 2 行上の Die Mädcl. duckt er da — wenn er da duckt. er — 前行の einer. da — vor den Kirchenvorschriften. ducken — intr. uneigentlich, sich fügen, sich unterwerfen, folgsam sein. (Grimm). eben — gerade. Alexandriner. (Schröer).
3528. siehst. . . ein — ein|sehen. Faust はいつものように Mephisto の嘲笑には気付かず、このような誤解に対して腹を立てる。(Arens).
3529. Seele — 魂の持ち主。
3530. = (Die) von ihrem Glauben voll (ist).
3531. Der — 関係代名詞。先行詞は前行の Glauben.
- 3532f. Ihr selig machend — 自分に祝福を与えてくれる (彼女の信仰)。Ihr — dativ. seligmachend と一語にしている版もある。heilig — in frommer Scheu. (Fischer). Gretchen の苦悩は “heilig” と呼ばれる。それは彼女が Faust の魂の救済に関っているからである。—— Faust は非教会的な考えの持ち主なので、彼女は Faust を墮落したと見なさざるを得ないのである。(Endres).

- sich heilig quäle, Daß — heilige Qual darum leide, daß. (Schöne). quäle — Konjunktiv I. 間接引用文。Vers 3529 からのつながりは：Wie diese treue liebe Seele. . . sich heilig quäle. verloren の前に für を補う。(Schröer). et. für et. halten. soll — ねばならない。
3534. übersinnlicher sinnlicher — “unsichtbar sichtbar”のように、好んで用いられた Oxymora の一つ。“Faust”の中では、Sinnlichkeit は übersinnlich な種類の考えと対になっている。(Trendelenburg). Freier — 2行下の Feuer と押韻する。
3535. nasführen — “einen an od. bei der Nase (herum) führen”という熟語によるゲーテの新造語。(Fischer). täuschen. Vgl. Vers 363. (Endres).
3536. Spottgeburt — Mißgeschöpf. Fratze, Karikatur aus höllischen Feuer und irdischen Kot. Vgl. Vers 8695. Nachtgeburt. (Schmidt). Dreck — coenum, lulum, limus. (泥). das gleichbedeutende kot ist minder derb und gilt für anständiger. (Grimm).
3537. Physiognomie — Mephisto は当時の語法に従って、Physiognomik と同義に用いている。(Schöne).
3538. wird's ihr — wird es ihr. あとに übel, schwer を補う。es — 非人称。
3539. Mein Mäskchen — Meine Visage. 私^{ツラ}の面。(Arens). Lärvchen. 仮面。(Schmidt). da — hier. Sinn — häufig bezeichnet sinn in verbindung mit adjectiven die gesinnung, das gemüt oder den character. (Grimm).
- 3540—41. Sie — Margarete. Genie — Original. 変人。(Trendelenburg). “Sturm und Drang”と若きゲーテの天才観に対する嘲笑が含まれている。天才は一切の人間的な秩序からはみ出た、半ばデモーニッシュな存在であった。“wohl gar der Teufel”という漸層法も、こうして初めて理解できる。(Arens).
3542. Was — Wie. dich's — dich es. es — 前半の heute nacht —? an|gehen.
3543. Hab' — Habe. dran — daran. Gretchen の純潔と Faust の道德上のためらいに打ち勝ったという(喜び)。(Trendelenburg). 強調のための倒置。

AM BRUNNEN

前の場とこの場との間には、短かい時間が経過している。Gretchen のスキャンダルはまだ公けになってはいない。だが彼女の明るさは永久に消えてしまった。娘たちが普段集まる井戸端で、おしゃべりな Lieschen が話すことは、今でも或いはあとでも、

Gretchen に当てはまることである。即ち、密会、贈り物、愛撫、身を任せたあとの愛人の逃亡。Gretchen が他の女の味方をして話しているように、彼女自身は恐らく救いとして結婚を期待しているであろう。たとえ結婚が彼女の名誉を取り戻してくれることはできないとしても。Gretchen の考えの一番深い奥底を照らし出しているのは、結末の言葉である。(Witkowski).

以前は Wald und Höhle の前に置かれていたこの場は、Gretchen が罪に落ちたのを自覚したあとの、彼女の心のありようを見事に描写している。彼女はただ一度だけ過ちを犯したのである——第2部の結末の所で、彼女はただ一度自分を忘れただけで、自分が過ちを犯したのに気付かなかつたのだ、と Gretchen について書かれている——そしてこの罪の意識に於ても、彼女は品の良さに溢れているように思われる。大多数の卑劣な考え方をする人々を表わしている彼女の仲間 Lieschen は、Gretchen の類い稀な人柄を引き立てるのに大いに役立っている。この場全体は状況に一つのイメージを与えるものであり、筋の発展のために何がしか寄与するものではない。この場はそれ自体一つの全体を成すものである。罪に墮ちた Gretchen を登場させるという考えが、詩人の心を引きつけた。彼女は今でもなお我々の心からの関心にどれほど値するか、ということ、詩人はどうしても示したかったのである。(Schröer).

興奮してしゃべる Lieschen と、硬くなって言葉少なに答える Margarete との対話の、韻律上不規則な Verse に反して、家に帰るときの Gretchen の孤独なモノローグは、弱音と強音の交替する Vierheber である。(Schöne).

3544. Hast —— (Du) hast. Bärbelchen —— Barbara の縮小形。3世紀の4人の偉大な聖女の1人。その4人の名前は：Agnes, Barbara, Catharina, Margaret. (Heffner). 現在完了。

すっかり感情的になった少女の人に伝えたいという衝動は、言葉の上では主語の頻繁な省略、従って動詞の文頭の位置で表現されている。それはこの箇所と Vers 3555, -56, -57, -58, -60, -62 である。彼女が見事なほど糞味噌に言ったあとで、ようやく彼女の話し振りは落ち着いてまた普通の調子になる。Lieschen の最初の質問は、Gretchen がもう知っているかも知れない、そしたらこの話をする楽しみがなくなるかも知れない、という心配を表わしているのは明らかである。ついでに言えば、Bärbelchen という二重の縮小形 (Vers 2873 の Gretelchen のような) は、単なる知人ではなくて、仲の良い友達の話であることを示している。(Arens).

3545. komm' —— komme. gar wenig —— selten. unter Leute kommen —— 人な

かに出る。恐らく Gretchen は、隣人の Schwerdtlein 夫人の所にさえも、もう行ってはいないだろう。自分がしていることは隠さねばならない、ということを知っているからである。また人に感ずかれるかも知れないと恐れているからかも知れない。(Arens).

3546. Gewiß — Gewiß (ist es). es は次行 = daß die sich endlich auch betört hat. (Düntzer). Sibylle — Lieschen が引き合いに出しているこの娘の名前は、同時に古代の女予言者の名前でもある。実際 Lieschen が Bärbelchen についてしゃべっていることは、まさに Margarete の身の上にかかるであろうことの予言である。(Schöne). sagt' — sagte. mir's — mir es. es は次行。

3547. Die — 指示代名詞。= Bärbelchen. endlich — 私 (Lieschen) がもうずっと前から期待していたことがとうとう起った。(Arens). Die... auch — Bärbelchen の前にも何人かいたのかも知れない。(Arens). hat sich betört — hat sich betören(verführen) lassen. 誘惑された, だまされた。(Schöne). 現在完了。

3548. Das — 指示代名詞。前行のこと。das Vornehmen — sich vornehm behaben. (Sanders—Wülfing). von Campe citiert, wobei er das wort als 'niedrig, aber deshalb noch nicht verwerflich' bezeichnet. (Grimm). airs and graces. 気取った, 上品ぶった態度。(Luke). fine airs. (Atkins). superior airs. (Heffner). Es stinkt = Es sieht übel aus, es steht schlimm. 粗野な俗語。es は非人称。(Fischer). stinken — als unedleres Wort für übel, unangenehm, ekelhaft riechen. (Heyse).

3549. füttern — ernähren, mit Speise und Trank versorgen. (Fischer). zwei — 2 人を。zwei füttern — von einer weiblichen person gesagt, in verhüllender anspielung so viel als schwanger sein. (Grimm).

3548—49. ここに明白に表われているのは、妬みと満足が模範的に入り混じった感情である。Lieschen よりましな身分ではないのに、Bärbelchen に与えられた一切の喜びと享楽に対する妬み。心から期待していた正義が今や行なわれて、とにかく相応しくないこと, 不埒で羨ましいこと, こうしたすべてに対して償わねばならないということで, Lieschen は満足なのである。(Arens).

3550. Ach! — Gretchen の深い狼狽が, 一つの Vers として数えられるこの“Ach!”に表われている。この狼狽は彼女が誘惑された Lieschen と自分を, 初めて同一視したことから説明される。(Arens).

3551. ist's — ist es. es は非人称。es ergeht ihr recht. 現在完了。

3551—61. ここは Vers 3547—48 のテーマの反復と改作である。Vers 3551は Vers

- 3547の反復であり、Vers 3552—60はVers 3548の詳しい話であり、Vers 3561はVers 3547, —51のテーマを再び持ち出したものである。(Arens).
3552. Kerl — Bärbelchen を誘惑した男。軽蔑的な意味。(Arens). 粗野な言葉では、娘の liebhaber は ihr kerl と言われる。(Grimm).
- 3553—60. Lieschen は全く主語のない言葉で、悪口を次々にぶちまけるが、話している人称は, beide, er, sie などに始終変わる。一緒に散歩したり、村やダンス場に誘ったりするのはどんな具合か、市民の娘たちの気分はどのようなものか、ということとは、“Vor dem Tor”の場ですでに示されている。(Arens).
3553. Das — 前行の内容を指す。Spazieren は次行の Führen と共に動名詞。
3554. Dorf, Tanzplatz — Akk.
3555. Mußt' — (Sie) mußte.
3556. Kurtesiert' — (Er) kurtesierte. = den Hof machen. フランス風のいんぎんな言葉を Lieschen がまねたもの。(Schöne).
3557. Bild't' — (Sie) bildete. sich³ auf et. ein|bilden. was — etwas. ここで Bärbelchen は Gretchen 同様美しいのがわかる。Lieschen はそうではない。(Arens).
- 3558—59. War — (Sie) war. so — 後半の zu 不定句と呼応する。sich schämen, et. zu tun. 次行が補足語。ehrlos というきびしい否定で、Lieschen は贈物など一つも貰ってはいないのがわかる。(Arens).
3560. War — (Beide) war. Gekos' — Gekose. = ein anhaltendes oder wiederholtes Kosen. (Heyse). liebkosen. (Grimm). Geschleck' — Geschlecke. 俗語。チューチュー音を立ててキスをすること。(Trendelenburg). Leckerei, Geküsse, Küsserei. (Fischer).
3561. Da — 文法上の主語 es と同じ。denn auch — そういうわけで。das Blümchen — Jungfräulichkeit. (Schröer).
3562. Ding — Vgl. Vers 2652. Bedauerst — (Du) bedauerst. noch gar — sogar noch. かてて加えて。= どうして気の毒だと思ふのか! 英訳では: “How can you pity her!” (Atkins). “Poor thing, you say!” (Greenberg).
3564. nachts — abends nach Einbruch der Dunkelheit (südwestdt. Sprachgebrauch). (Schöne). hinunter lassen — auf die Gasse lassen. 外に出す。(Endres).
3565. sie — Bärbelchen. süß — angenehm, wohltuend. (Fischer).
3566. Türbank — bank bei, vor einer (haus-)thür. (Grimm).

3567. ihnen — beiden.

3568. mag — 冷淡な許可。したらよい。

3569. Im Sünderhemden Kirchbuße tun! — ドイツの中世に於ては、罪を犯した娘たちは、教会によって処罰され、Sündenhemd という下着のような衣服を着て、祭壇の前にひざまずいて、僧侶の訓戒を聞かねばならなかった。更に懺悔では、可能な限りの不名誉な形を取り得る厳しい贖罪の命令が行われた。(Endres).

18世紀の80年代に於てもなお Weimar では、説教壇から下されるこうした公けの叱責という、自尊心を奪うやり方が行われていた。ゲーテは官吏として何度かこの処罰の廃止に努めて、1786年5月15日に徹廃に成功した。(Erler).

3570. Er — Vers 3565 の Bärbelchen の Buhle. 次行の Er, 3行下の Er も同じ。sie — Bärbelchen. Margarete はこう言いながら、自分のことも考えざるを得ないのだろう。(Kerker の中で„Mein Hochzeitstag sollt' es sein! Vers 4581”ともはや自制できなくなったときにだけ初めて口に出すけれども)。彼女の途方にくれた言葉は、この場の Vers の配列に於ても、もはや支えるものがない。つまり特別な、Ach! Vers 3550と並んで、ここは韻律上不規則で、Reim のない発言の唯一の場合である。(Schöne).

3571. wär' — wäre. Konjunktiv II. 現在の仮定。あとに wenn er sie heiratete を補う。(もし彼女と結婚したら)、彼は馬鹿でしょうよ。flink — gutaussehend, munter, beweglich, fein. (Goethe Wb.). 立派な、機敏な。(Grimm). Jung' — Junge. 次行の genug と押韻する。

Lieschen は Bärbelchen に、結婚による名誉の回復すら認めようとしなない。(Endres). 今や Lieschen は完全にこの若者の味方である。彼はもう“Kerl” (あいつ) なんかではなくて、“flinker Jung” 即ち、Bärbelchen には勿体なさすぎる男であり、恐らくは自由に移動する職人の徒弟なのであって、彼にすべてを与えたけれども良い嫁ではない彼女に、もし束縛されるとしたら馬鹿者だろう。有難いことに彼は彼女を見捨ててくれた! (Arens).

3572. Luft genug haben — volle Freiheit od. Wahlfreiheit haben. (Fischer). genug — genug の古形。Klopstock の先例に倣って、ゲーテによって Reim に用いられた。(Düntzer). Vgl. Vers 2139.

3573. auch — in der Tat. Gretchen 自身とても辛く感じている恋人の逃走が、ここで唯一の不快な意見を言わせている。(Trendelenburg).

3574. Kriegt sie ihn — Wenn sie ihn kriegt. kriegen — gewinnen. soll's — soll es. es は非人称。es geht ihr übel. 彼女は具合が悪い。soll — 話者の意

志。= Wollen wir sie übel ausgehen!

3575. Kränzel — Kranz の縮小形。reißen — hinabreißen od. zerreißen. (Schröer). ihr — 彼女から。婚前交渉のあった娘たちは、結婚式の前夜と教会に行く途中で侮辱された。彼女たちはミルテの冠をかぶってはならなかった。敢てかぶると引き裂かれた。また玄関のドアに藁の冠がかけられたり、花の代りに切り藁 (Häckerling) が撒かれたりした。(Reclam).
3576. wir — wir Mädchen. (Trendelenburg). このおしゃべりの場に於ては、このようにぞっとするほどあからさまな光景が呈示される。同時に 1 人の女性が権力によって、即ち、偽善的な市民道徳と教会活動、妬み、復讐心、残酷さなどの入り混じったあの暗い権力によって、さらし者にされるのである。当時の道徳に対する告発は、Valentin の場に於てなお一層鋭く鳴り響くだろう。(Arens).
3577. Konnt' — konnte. so — あんな風に。schmälen — herabsetzen, heruntermachen. (Schöne).
3578. tät — tat. Vgl. Vers 2138. fehlen — einen Fehler machen, einen Fehltritt tun. (Truntz). Wenn tät — 1790年の Fragment と1808年版の定本では Sah ich. 1816年に Urfaust の Wenn tät に改められた。(Schmidt).
- 3579—80. andrer — Pl. Genitiv. (Heffner). gnug — genug. der Zunge — Dativ. for my tongue to say. (Heffner). nicht genug finden können. (言葉を) いくら見つけても見つけすぎることはない。
- 3581—82. mir's — mir es. es は 2 行上の andrer Sünden. und schwärzt's — und (ich) schwärzte es. (Heffner). od. und wenn ich es noch vollends schwärzte. (Schmidt). = Wenn ich das für schwarz Gehaltene noch schwärzer gemacht hatte, schien es mir immer noch nicht schwarz genug. (Reclam).
3583. segnet' mich — (ich) segnete mich. 他の人々のような目に会わなかったことに対する感謝と誇りの表現として、私は自分に対して十字を切ったということ。従ってこれは不幸な人々に対して同情せず、自分は正しいという思い上がった気持の表現である。Vgl. das Gebet des Pharisäers, Luk. 18, 11: „Der Pharisäer stand, und betete bei sich selbst also: Ich + danke dir, Gott, daß ich nicht bin wie andere Leute, Räuber, Ungerechte, Ehebrecher, oder auch wie dieser Zöllner.“ (Reclam). tat — 振舞う。so — sehr.
3584. Und bin — Und (ich) bin. der Sünde bloß sein — der Sünde wehrlos gegenüberstehen. (Erler). od. ich bin bloß wegen, mit meiner Sünde, der Sünde schuldig, daher als Genitiv gedacht. (v. Loeper).

3585—86. dazu mich — mich dazu の版もある。(v. Loeper). dazu — zu der Sünde. Gott! — ach Gott! Gretchen が古い習慣に従って他の人々と同じように、“Sünde”と呼んでいるものは、すべて良いもの、いとしいものであった。(その場合、こうした行為は本当に悪であり得ただろうか?) 彼女が心の底から肯定したことを非難するなら、彼女は自分自身を真に否定することになる。(Arens).

ZWINGER

市の囲壁と家々の間の狭い場所。(Adelung). 城壁のくぼみに置かれた礼拝像は、十字架にかけられたイエスを囲んでいるアンサンブルの中と同じように、頻死の息子を見上げている悲しみ多きマリア (Mater dolorosa) を示している。

詩節の行数、韻律、リズム、脚韻の結び方などの変化は、Margarete の詩句に、極めて感情的な心の動揺を与えている。予め定められた祈りのように感じられる最初の3節は、実際13世紀の *Stabat mater dolorosa*-Dichtung に似ている。これは賛美歌として Brevier (聖務日課書) に、Sequenz (続誦) としてカトリックの典礼に受け入れられた。そして反復される冒頭の詩句は、遙か先を指し示している。即ち、この冒頭の詩句は形を変えて、Faust 第2部の結末の所の、懺悔する女の幸福の祈りの中で繰り返されることになるだろう。(Vers 12069 ff.). この変化は第1部と第2部の間の最も重要な支柱の一つを成すものである。(Schöne).

この祈りの構成は、願い (第1節) — マリアの観察 (第2, 3節) — 自分の苦しみの描写、だがその理由は秘められたまま (第4—7節) — 願い (第8節) になっている。呼びかけのない第5—7節までは、祈りのつながりであり、親密な対話の形が認められる。(Arens).

3587. neige — du に対する命令法。jm. et. neigen. フランクフルトの方言では、neige と次行の reiche とは押韻する。(Reclam). Vgl. Vers 449, 730, 3463, 12069. 十字架にかけられたイエスと、天にまします父を見上げているマリアは、その眼差しを懇願している者に向けて欲しい。(Schöne). Mater dolorosa への懇願に答えて、作品全体の結末の所で Mater gloriosa が現われる。(Arens).

3588. Schmerzenreiche — 形容詞の名詞的用法。= die schmerzenreiche (auch schmerzhaft) Mutter (Maria dolorosa). (Düntzer).

3590—92. Das Schwert im Herzen — あとに gestochen を補う。Mit tausend

Schmerzen — Urfaust では Mit tauben Schmerzen. (Gaier). Blickst auf — Blickst (du) auf. auf|blicken. Luc. 2, 35: „(Und es wird ein Schwerdt durch deine Seele dringen) auf daß vieler Herzen Gedanken offenbar werden.”による。(Schröer).

ゲーテはここで13世紀の Jacopone da Todi の作とされる、かの有名な賛美歌 “Stabat Mater”のことを考えている。その最初の6行は次の通り：

Stabat Mater dolorosa	Es stand die Schmerzensmutter
Iuxta Crucem lacrimosa,	Neben dem Kreuze weinend,
Dum pendebat Filius.	Als ihr Sohn dort hing.
Cuius animam gementem,	Ihre seufzende,
Contristatam et dolentem	Trauernde und schmerzende Seele
Pertransivit gladius.	Durchbohrte ein Schwert.

用語が示しているように、ゲーテはこの賛美歌を参考にした。このことは更にゲーテが最初の21行に於て、その a a b c c b という押韻の手本を受け入れているという事実によって証明される。その場合また各節の最初の2行は女性韻の末尾、3行目は男性韻の末尾になっている。(Arens).

3594—95. shickst Hinauf — hinauf|schicken. um seine und deine Not — um seiner — des Sohnes — und deiner Not willen. (Königs).

3596—98. = Wer fühlt, wie der Schmerz in meinem Gebein wühlt?

3596—3619. 愛する人に自分の悩みや状況を打ち明けるより自然なことは何もない。

Gretchen はそのようなことを一切してはいない。これは考えられないことではない。Friederike が青年ゲーテに対して取った態度が、これに対応しているように思われる。今や我々すべてが知っているイメージと状況の中で成長し、間近に迫っていることを恐れて震えている単純な子供である Gretchen は、それでも Faust が Faust 自身であることを望むなら果すことができないことを、感情にかられて Faust に要求することはしない。これはこの地上では確かに没落ではあるが、彼岸では彼女の救いを意味する所の感情の絶対性から出た、真に英雄的な態度である。彼女が受けた教育のうちで、彼女にこうした態度を取る能力を与えるものは何もないのであるが。

ただ神から見た場合にのみ、もしかすると彼女に値するかも知れない一人の男に対する愛から、彼女は今そしてこれからも代理としての悩みを悩む。そしてこの代理としての悩みによって彼女は、真に彼の救いの原因になるのである。—— Faust の Gretchen に対する態度への結論を引き出すのは、全く不可能である。だ

が母親の死はこの場の前だったのだろうか、それとも次の場の前だったのだろうか、何れにせよ Faust の態度は、良い印象を与えるものではない。(Arens).

3599—3601. banget, zittert, verlanget — intr.と解するのが一番良い。wo — wie. (Heffner). verlanget の前に es を補う。(Endres). es は mein armes Herz. 英訳では：“How afraid my poor heart is, / how it trembles, how it’s yearning, / only you can know, and you alone!” (Atkins).

もしかするとここでも“Stabat Mater”の記憶の影響が残っているのかも知れない。第2節ではマリアについて次のように書かれている：“Quae maerebat et dolebat / Et tremebat. . .” („Welche trauerte, litt und zitterte.”). すでに第1節に於ても、このような三つの組み合わせが行なわれている。韻律もここでは完全に同じである。(Arens).

3602—04. Wohin immer — Wohin auch. 認容。(Arens). Wird mir — Wird (es) mir. = Wie weh, . . . in meinem Busen hier wird!

3605—07. Ich bin ach kaum alleine — Sobald ich nur allein bin. (Schöne). = Kaum hat er mich verlassen. (Arens). wein’ — weine. Vers 3601では nur du が2回, Vers 3603では wie weh が3回, ここでも ich weine が3回それぞれ繰り返されている。こうした繰り返しは Gretchen の悲嘆の音が、すすり泣きによって中断しているように聞こえる。(Trendelenburg).

Gretchen は妊娠しているのを知っていて、それを Faust に話してはいないのは明らかである。従って Faust は故意に悲惨な状態で彼女を見捨てたのではない。Gretchen のこうした完全に現実的で、同時に観念的な性質に直面すると、(この彼女の性質を当然のことながら、男性の文献学者たちはいくら賞めても賞めすぎることはなかった) 1828年10月22日のエッカーマンに対するゲーテの言葉を、我々ははっきり思い浮かべざるを得ない。「女性についての私の考えは、現実の姿から抽象されたものではなくて、私に生まれついたものなのだ。或いは私の心に生じたものなのだ。どうしてそうなのか、誰にも分からない。私が表現した女性は、すべて現実に出会う女性よりもすぐれているのだ。」(Arens).

3608. Scherben — der Blumenscherben. 陶磁器製の植木鉢。(Adelung).

3609. Betaut’ — Betaute. et. mit et. betauen.

3611. Dir — Für dich. Gretchen は窓の外側に花の植木鉢を置いている。それを摘んで花束を作り、マリア像の前の花瓶に生けたのである。(Heffner).

3612—13. Schien hell herauf — Als die Sonne früh in meine Kammer hell heraufschien. (Endres). herauf|scheinen. ゲーテによって Werther のため

に翻訳された Ossian の The songs of Selma 参照： „Ich sitze in meinem Jammer, ich harre auf den Morgen in meinen Tränen. (Gaier).

3614—15. Saß. . . auf — auf|sitzen.

3616. H̄ilf! r̄ettē mīch v̄on Schm̄äch ũnd T̄öd! — Hilf も rette も共に du に対する命令法。Spondius によって懇願にかなり強い表現が与えられている。(Ciupke). Urfaust では： „Hilf retten mich von. . . “ 取りなす人、仲介者としての Mater dolorosa は、しかし「十字架による救い」である。1790年の Fragment の印刷で行なわれたこの僅かな変更は、キリストの犠牲の死に対するこうした指摘を払拭して、聖母自身が救い主であると言っているのである。このことは Faust II の結末の場にも極めて正確に当てはまる。(そこでは曾って Gretchen と呼ばれた懺悔する女が、Mater gloriosa に対する祈りの中で、Zwinger Szene の悲痛な詩句を、至福の詩句に転ずることになる。Vers 3617 ff.→12069 ff.) (Schöne).

Gretchen は自分自身の死、つまり自分の状態からの逃げ道として、自殺を考えているのではない。自殺が未婚の母たちから目標とされたことは決してなかった。彼女たちの唯一の考えは、いつも「つまずきの石」である子供を片付けることだった。(Arens).